- Medical Salon NANAO

メディカルサロンーののの





目 次

H: 4/1

衣紙 ····· p.	1
挨拶 ····· p.	
新しい仲間①~④ ······p.3~	6
介護医療院転換に当たり p	7
本日休診 p.	8
特定行為認定看護師①・② p.9~1	0
これだけは言わせて	
地域医療構想の現状p.1	1
ローカル路線・夏の旅 ····· p.12~1	3
ななお紫蘭の会 活動報告p.1	
あじさい会 活動報告 ·····p.1	5
七尾看護専門学校だよりp.1	6
医師会の窓p.1	7
副会長のコーナー/短信/編集後記 p.1	8

長谷川等伯の旅立ち像

1571 年 33 歳で七尾市から旅立った長谷川 等伯は画聖として京都で活躍。

それから約 450 年、七尾港には食祭市場が 賑わっている。

中泉治雄



パンデミックを乗り越えて 一 私たちがすべきこと 一

七尾市医師会会長 奥村義治

いろいろな災害が毎年のように起きている昨今、 身近で古くから存在するウイルス感染症が大規模な 災いをもたらすということに改めて気づかされていま す。感染症を甘くみて、意識が回らなかったのかもし れません。振り返りますと、これまで人類はさまざま 病原体、特にウイルスや細菌との闘いでした。

今回の新型コロナウイルス感染症は今までになかったスピードで世界中に蔓延しましたが、かつてこのような速さで世界中に広まった感染症はなかったのではないでしょうか。まさに全人類が一致団結して、地球丸としてこの感染症に立ち向かわなければならない状況となっています。

新たに出現したウイルスと対峙するには、治療法が確立するまで、あるいはワクチンによる集団免疫が獲得されるまでは密集の回避と移動の制限が何よりの防御となります。ウイルスからできるだけ離れる事が唯一の予防手段と言えます。

今から約100年前に流行したスペイン風邪 (インフルエンザ)の際には、当初大きな催し物や興行などは中止することなく開催されており、その結果、多くの感染者や死亡者を出しました。その一例として、当時台湾で興行されていた大相撲がしばしば取り上げられますが、この巡業では参加していた力士が次々とインフルエンザ禍に倒れ、角力風邪 (相撲風邪)とも呼ばれていたようです。

それに比べ、今回は大相撲のみならず各種のスポーツ大会、数多くの催し物が中止され、世界的イベントであるオリンピックも延期という選択がおこなわれました。100年たっても人間のできることはこれだけ、という見方があるかもしれませんが、1世紀前の教訓が生かされたとも言えます。また、政府が全都道府県に発出した緊急事態宣言は、3密や移動の制限を確実に行う事につながり、国民が意識を一にすれば大変有効な予防手段となり得ます。

そしてスペイン風邪が流行した100年前と比べて何よりも異なるのは、我々人類がワクチンや治療薬の開発力、情報力に関して、比べ物にならないほど進歩を得ているという事です。いずれ早い時期に治療法が確立し、ワクチンが開発されて私たち一般の診療所や病院でも使用できるようになることを期待しています。

一方で100年前と比べて大きく異なることもあります。それは移動する手段が数段発達して、人の交わる機会が非常に増えたことです。移動や交流によって発展してきた現代においては、これを急に休止し、しかもそれが長期に及ぶと経済の衰退につながります。しばらくは感染状況などを確認しながら行動や経済活動の再開を緩急つけて行うしかなさそうで

す。その手綱を握るのは政府 や地方自治体ですが、その 手綱は揺るぎのない頑丈な物 であって欲しい、また手綱の とり方は俊敏かつデリケート であって欲しいと思うのは国 民皆の思うところです。

私たち人類とウイルスの戦いは西暦2,000年以降、激し



さを増して新たな局面に入ったと言わざるを得ません。 野生動物に由来すると考えられるSARS、新型インフルエンザ (パンデミック2009)、MERS、エボラ出血熱、ジカ熱など、次々に新たな感染症が流行するようになりました。この要因のひとつは、野生動物を食べる「野味」が原因ではないかという説も出ましたが、そのような簡単な原因だけではなさそうです。

これまで我々人類は無秩序な熱帯雨林の開発や都市開発などで環境を大きく破壊し、大量のCO₂の発生を許容してきました。その結果、地球規模の温暖化が加速度的に進み、この事は野生動物の生態系へも深刻な影響をもたらしました。すなわち野生動物は生息域が狭くなって、人間との距離が近づいた結果、新たなウイルスを人間社会に呼び込むことにつながった可能性が指摘されています。

近年、私たちの身の周りで起こっている事を思い起こしても、降雪の極端に少ない暖冬、ゲリラ豪雨、大型台風の頻繁な襲来など、これまで稀にしか遭遇しなかった事象をしばしば経験するようになりました。これはひょっとすると地球の悲鳴かもしれません。今回のウイルス感染症も地球の悲鳴の一端なのかもしれないと思っています。

今回の新型コロナウイルス感染拡大で経済活動が停滞する中、今年の世界の温室効果ガス排出量が過去最大の減少(前年比5.5%減少)を記録する見込みであると試算されています。年間減少率としては大恐慌や第2次世界大戦などを上回る過去最大となりますが、パリ協定で定めた産業革命前からの気温上昇を1.5℃にとどめるには今後10年間CO₂排出量を毎年7.6%削減し続ける必要があるとの事で、地球の悲鳴を鎮めるのは並大抵のことではありません。

パンデミックの終息が見え始めた時、私たちは新たな感染症に備えるのみならず、以前にも増してCO2排出削減に向かって舵をとらなければならないと感じています。このことを実現するためには生活様式の変更も求められますが、その根底にあるべきは地球を思いやる気持ちです。

| 七尾市医師会広報誌 | 03



新しい仲間

恵寿総合病院 石川県七尾市富岡町 94 番地

> 鎌田 徹

昨年4月1日、新元号(令和)が発表された記念 の日に恵寿総合病院の病院長に就任しました。それ で、今年2020年1月15日に"新しい仲間"欄への原 稿執筆を依頼されました。7月に掲載されるという事、 そして新しい仲間かと言われると新しくないので、少 し間の抜けた執筆になることをお許しください。これ まで慣れないことや至らないことが多くご迷惑をおか けしたと思いますが、なんとか新年を迎えることが できましたというのが現在の心境です。みなさまの おかげと感謝しております。何が変わったかというと、 まず部屋が変わりました。これまでは副院長室の4 人部屋でしたが、広い個室になりました。本や書類 はひょいと手を伸ばすと届くところにあったのに、少 し歩かないと届きません。そして、シャチハタを押す 回数が数十倍になりました。昼は毎日、医局で専属 シェフ?の美味しい昼食を食べた後、事務部長・看 護部長と懇談しながら、色々な書類にシャチハタを 押しています。一方、病院長も勤務医なので、出退 勤処理はしていますし、出張申請もこれまでどおり行 っていますので、何か特別という感じはありません。

さて、2020年の干支は「庚子(かのえ・ね)」だ そうです。干支は10種類の十干(じっかん)と、12 種類の十二支の組み合わせで60種類(なぜ12×10 の120種類ではないのかとちょっと疑問ですが、実 際には本当に60種類しかありません)が存在し、 60年で一巡します。2020年は十干が「庚(かの え)」、十二支が「子(ね)」であり、2つ合わせて干 支は「庚子(かのえね)」となります。「庚子(かのえ ね)」が表す意味は、新たな芽吹きと繁栄の始まり です。つまり、新しいことを始めると上手くいく、大 吉です。商売・新築・結婚などには良い年だそうで す。さて、わたくし、60年前の1960年の「庚子(か のえね)」2月15日に珠洲市正院町で生まれ、25 年前に恵寿総合病院消化器外科に勤務開始し、今 年還暦となりました。こんな、めでたい年に生まれ、 元気に仕事をしながら還暦を迎えたということは大 変光栄です。1960年はねずみの中でも家ねずみだ そうで、食いものには困らないらしいです。ねずみ は十二支の最初で、牛の背中からちゃっかり飛び降り、 それで、十二支の一番となりました。要領が良く、お 調子者という点では、少し心当たりがあります。

一番といえば、これまで自己ベストを目指して、20 年ほど前から泳いでおりました。そして、年数回の水 泳大会(県体や県マスターズ大会)にも参加し、10 数年前と50M自由形のタイムは2秒以内に収めてきま した。が、ここ1年は身体の衰えを少しでも食い止め ることとメンタルのリフレッシュが目標となっています。 したがって、最近は頑張らず、ちんたら泳ぐこと、そ して疲れすぎず、ほどほど、継続性を心がけています。 頑張ると翌日の仕事への集中力、体力が気になるよ うになってきました。

仕事と言えば、現在午前は毎日乳腺外来、午後は 週1または週2の手術をしています。これまで50代、 若いと思っていましたが、周りから還暦だとか、歳だ とか言われると、60歳を過ぎて外科手術をすること は是か非かと考えるようになりました。乳がん手術は 消化器がん手術と違って、手術時間は短く、体力は 要らないのですが、センチネルリンパ節生検と言って、 細いリンパ管を見つけたり、鎖骨下静脈周囲の腋窩 リンパ節の廓清をしたりすることもあって、視力や集 中力を必要とします。なにより手術は様々な場面での 素早い判断力が必要です。個人差があるので、外科 手術は何歳でだめとは言われなくとも、自信過剰にな らず、謙虚に手術に臨みたいと思っています。そして、 密かに今年は「庚子(かのえ・ね)」なので、乳腺を 専門とする外科医が現れるんじゃないかと期待してい ます。

最後は少しまじめに。当院には医療安全・医療の 質(満足度) 向上・教育/研修・救急体制・職員満足・ 働き方改革(有給休暇5日以上取得)・生産性向上な どの普遍的な課題があります。さらに昨年からこれま で以上に地域医療支援、なかでも紹介・逆紹介を大 切に考えてきました。患者さんには紹介状を持参して 下さるようにサイネージ掲示し、紹介状持参患者さん は優先的に診察するように努めています。初診患者さ ん、中でも紹介患者さんの外来予約の試みもはじめ ています。

みなさまには今後もご指導ご鞭撻、宜しくお願い申 し上げます。









令和2年4月より国立病院機構七尾病院の院長に就任いたしました安井正英と申します。平成30年4月より七尾病院に勤務し、同時に七尾市医師会にも加入させていただいております。しかし、医師会のお手伝いがほとんどできておらず、私のことをご存知ではない会員の方も多数いらっしゃると思われ、この機会に改めて自己紹介をさせていただきます。

私は、福井県福井市出身で、県立藤島高校を卒 業後金沢大学医学部に入学いたしました。入学当初 サッカー部に入るも、体力的にきつく、同級生女子 に勧誘されて未経験の弓道部に入部しました。また、 高校の同級生に誘われ文科系サークル社会医学研究 会にも入り、保健学科看護部と共に、春と夏に僻地 で団体生活を送りながら家庭訪問と健診を柱としたフ ィールドワークを行っていました。入学当初より内科 と外科には進む気はなかったのですが、6年生にな り入局先を決める時期となり、親族に医療関係者が おらず、病気の際に少しでも役立つことを考えて、と りあえず内科に進むことを決め、昭和62年4月金 沢大学第三内科(松田保教授)に入局しました。第 三内科は血液内科が主で、呼吸器内科もまだ数名し かいない時代でした。受け持ち患者の骨髄穿刺標本 は自ら顕微鏡をみながら細胞分画をカウントするので すが、読み始めるとすぐに乗り物酔い状態に陥るた め血液内科は早々に断念し、呼吸器内科研究室に所 属しました。

呼吸器内科では、七尾病院前院長藤村先生がチーフになられたばかりであり、ご自身の専門である気道アレルギーに加えて肺癌と間質性肺炎を加えた3つのサブグループを作ることを掲げられ、私に間質

性肺炎の研究と臨床に取り組むことを命じられました。 間質性肺炎は原因不明のものが未だに多いのですが、 単に原因がみつかっていないだけであり、すべての 間質性肺炎の原因を追求し、原因あるいは病態別に 治療を行っていくことを大目標に掲げ、薬剤や真菌ア レルギー、膠原病、感染症など多方面から臨床的な 検討を行ないました。

平成20年4月金沢市立病院に勤務することにな り、呼吸器疾患全般に関し診療を行いました。赴 任当初適切な吸入ができない患者さんが多く、そ のためまず院内での吸入指導システムを構築しまし た。その後、金沢市および石川県薬剤師会とも協 力し、調剤薬局への吸入指導講習会を繰り返し開 催し、吸入指導の普及を行いました。また、北陸 では初となる呼吸サポートチームを立ち上げ、レス ピレーター管理のみならず、呼吸器疾患患者さん の日常診療に関わる様々な問題点をピックアップし、 チームとして改善に取り組みました。金沢市立病院は、 金沢市内で唯一結核病棟を有しており、結核病棟医 長として多数の結核患者さんの診療を行いました。ま た、金沢市感染症審査会にも長年加わっておりまし た。このような経歴を見込んでいただいたのかどうか はさだかではありませんが、藤村前院長よりお誘いを うけ、平成30年4月より七尾病院に勤務させていた だくこととなりました。

七尾病院について改めてご紹介させていただきます。 戦後国立療養所として能登地区の結核治療の中心的 役割を担い、昭和 51 年から重症心身障害者(児) 病棟、 昭和61年からは神経難病を含む慢性難治性疾患専 門施設となり、平成 16 年から独立行政法人国立病 院機構に移行し現在に至っております。このような歴 史的経緯から政策医療である「結核の入院治療・神 経筋疾患に対する長期的治療・重症心身障害者(児) の療育」が当院の三本柱となっています。これに加 えて平成25年4月前院長藤村政樹先生が就任後、 我が国における慢性咳嗽の診療および研究の中心的 施設となり、長引く咳に苦しむ患者様が全国より多数 来院されるようになりました。 平成 30 年 4 月に私が 七尾病院に赴任後、慢性咳嗽の診療に関して改めて ご指導いただいており、今後とも引き続き患者様の診 療を継続させていただきます。さらに、私の専門とし ている間質性肺疾患患者さんの診療や呼吸サポート チームの育成などにも取り組み、呼吸器専門医が極 めて少ない能登地区の医療に貢献させていただきた いと考えております。平成21年10月病棟新築、平 成30年3月管理棟新築、そして令和元年5月外来 診療棟が新築整備され、新七尾病院が完成いたしま した。まだご覧になっていない方も多いと思われます が、イメージを一新した七尾病院をぜひ一度見学に お越しください。院長就任にあたり、新たなキャッチ フレーズとして "笑顔と誠実な医療を通じて世の中に 貢献する"ことを掲げさせていただきました。 笑顔と 誠実な医療をキーワードに、患者さんおよびそのご 家族のみならず、広く地域住民の皆様に対してもお役 にたてるように邁進していく所存ですので、七尾市医 師会の会員の皆様にはより一層のご支援ご鞭撻を賜 りますようお願い申し上げます。

七尾市医師会広報誌 | 05



新しい仲間

社会医療法人財団董仙会 田鶴浜診療所 所長 介護老人保健施設 鶴友苑 施設長

> 窟正 修一





田鶴浜診療所

鶴友苑

「医師としての第2の人生」

縁あって、2年前の2018年の春から七尾市田鶴 浜町にある恵寿グループ (董仙会) の田鶴浜診療所 及び老健施設鶴友苑の責任者(診療所の所長及び老 健施設の施設長)として働いています。26年半の字 出津総合病院で循環器内科医師として過ごした「医師 としての前半の生活(医師としての第1の人生)」の 後にこの田鶴浜にやってきました。

出身地は石川県羽咋郡宝達志水町の旧押水町です。 地元の小学校を卒業後、縁あって金沢大学教育学 部附属中学校及び金沢大学附属高等学校を卒業後、 金沢大学医学部医学科を卒業して医師になりました。 医師になってから早や40年が経ちましたが、これま では診療所や老健施設では仕事をした経験が全く無 かったので、今でもびっくりするようなことが多々あり ます。

以前の宇出津総合病院の時とは全く異なった生活 を送っています。カレンダー通りの月曜から金曜日ま での勤務、週末は土曜日と日曜日が休日です。勤務 時間は、朝8:30から夕方の5:15までであり、殆 ど救急車対応がないのと、診療所では入院患者がい ないのがとても気に入っています。自宅の宝達志水 町から毎日片道40キロ余りを好きな2台の車(平成 5 年に入手した BMW535 と平成 30 年に入手した X3) で通勤しています。道中は殆どが能登里山街道 なので片道 40 分程度の快適なドライビングとツーリ

ングを楽しんでいます。

診療所での仕事は意外と面白く興味あるものであり、 プライマリーの医療を楽しくやっています。「元気で長 生きするために」 をテーマとして、 心臓や血管を中心 とした生活習慣病の管理、骨粗鬆症及び睡眠障害な どの管理を主体に行っていますが、治療の必要な骨 粗鬆症の方が多いのには驚きます。スクリーニング検 査の手段としては、採血検査、検尿検査、心電図検査、 単純レントゲン検査、骨密度検査及び末梢血管評価 の ABI 検査ができるようにセットアップしてあります。

一方、老健施設に関しては、小生介護については 全く素人であり、今でも周囲のスタッフにおんぶにだ っこしてもらっている状態です。最初の頃は、あまり のカルチャーショックで驚くことばかりでした。現在 も依然としてまだまだ新米さんの状態です。

日常生活では、天候が許せば、早朝の朝食前と昼 休みにウオーキングを合計2時間程度行っています。 また、春から秋の週末には、宇出津時代から趣味に している「能登キリシマつつじ」の鉢植えつくりと手 入れをしています。毎年、4月中旬から5月の連休 明けごろまで咲く燃えるような強烈な深紅の花びらを 眺めて楽しんでいます。機会があれば、ぜひ見に来て ください。

家族は、私のほかに妻と4男1女の5人の子供 がいます。今は、子供たちは皆巣立ってしまっており、 私たち2人になってしまいました。 私たち家族と七尾 との縁はかなり深く、家内と3人の息子たちは七尾高 校出身です。家内は元気に、調剤薬局の薬剤師とし てパートで働いており、週末には家庭菜園もどきのこ とを楽しんでいます。一方、5人の子供たちは社会人 として頑張っています(うち3人は医師として頑張っ ており、今後もお世話になることがあると思いますの でよろしくお願いします)。また、今年の夏に産まれ る予定の赤ん坊も含めて8人の孫がいます。孫たち と一緒にいるとよい「じいじとばあば」です。みんな 元気に育ち、少しでも社会の役に立てる人間になって ほしいと願っています。

現在、「医師としての第2の人生」を送っています が、少しでも田鶴浜町地域の人達の役に立てればい いなと考えています。 医師になって早や 40 年が経ち ましたが、これからは「医師としての後半の人生」を あくせくすることなくのんびりと有意義に送りたいと思 っています。可能な限り、医師としての現在の生活を 続けたいと思っています。「いつまでも本質を大切に したい、優しくありたい、人の良い面を見てあげたい」 などを最近は考えるようになりました。

新参者ですが、今後ともよろしくお願いいたします。





平成29年4月より八野田整形外科医院にて勤務しております八野田純です。原稿依頼を引き受けたのはいいものの、この手の原稿を書くのは苦手です。とりとめのない文章になってしまうかもしれませんが、自分の経歴や趣味、近況など書かせて頂きます。

小中高は愛媛県松山市で育ち、高校卒業後は名古屋工業大学の知能情報システム学科に入学しました。ここは今では当たり前になっている人工知能(AI)やインターネットをはじめとするネットワークを学ぶ学科でした。当時はまだ黎明期で学科は創設一年目、AIの教科書は分厚い洋書、ネットワークもインターネットは一般化していないような状態でした。英語の構文解析や音声分析もやっていて、当時は後10年もすれば自動翻訳も使い物になるようになってるだろうと思ってましたが、なかなか綺麗な翻訳は難しいようです。他にもニューラルネットワークやゲーム理論、画像解析等今のAIの基礎になるような事を学んでいました。

4年生でゼミにいるときCAPCOMというゲーム会 社から求人がありどうしようかかなり悩みました。た だ、ゲーム作りにせよプログラミングやシステムエン ジニアをやるにせよ趣味としてはともかく一生できる 仕事ではないと思い、卒業後一年勉強期間をおいて 当時の富山医科薬科大学(現・富山大学医学部) に 入学しました。卒業後は制度が出来て1年目のスーパ ーローテとなり、大学で全ての内科・外科と救急部、 富山県中で産婦人科、小児科、精神科等を回りまし た。2年間の初期研修を経て富山大学整形外科に入 局し、大学では腫瘍・脊椎チームに在籍し、その後 は高岡市民病院で5年間勤めました。将来的に父が 開業した八野田整形外科を引き継ぐため平成28年に 金沢大学整形外科医局に入局させて頂き、同年4月 より能登総合病院整形外科で1年間勤務いたしました。 能登病院に来て最初の2~3か月程の間だったか救 急からの外傷で緊急手術が異様に重なり凄いところ

に来たなと思いましたが、その後は比較的落ち着いてくれました。ただ、私が勤務していた時はまだドクターへリが無く、能登半島北部での交通事故の多発外傷や骨盤骨折の患者さんが2時間近くかけて搬送されてくることもあり、厳しい環境だなと思ったことを覚えています。能登病院の先生方は富山からいきなりやってきた私にもフレンドリーで、色々と助けて頂きましたし今でもお世話になりっぱなしです。

そして平成29年4月から八野田整形に入りました。 月~木まで私が、金・土は父が外来を行い、木曜午 後と金曜日は呼んでもらえれば能登病院で手術に入 る生活になりました。いきなり外来だけの生活ではな く、手術に呼んでもらえていい気分転換になりました。 外来をしている3時間と手術に入っている3時間では 時間の流れが全然違うように感じます。能登病院で 働いている時はそこまで高齢化が進んでいるとは余り 思わなかったのですが、八野田整形で働き始めると 70代は若い方で80・90代も当たり前の状態で能登 地区の高齢化をはっきり感じました。骨粗鬆症の治療が必要な患者さんも多く、骨折・寝たきり予防のた め骨粗鬆症治療にも力を入れています。

車が好きで未だにセカンドカーとしてRX-7という スポーツカーに乗っています。22年前に購入した車 で何度もメンテナンスを繰り返しながらなんとか維持 しています。今はたまにしか乗れていませんが街中を ちょっと走ったりしただけでも運転が楽しく感じます し、山道を走ったりしたときの楽しさも普段乗ってい るSUVとは全然違います。ターボが利かなくなった ロータリーエンジンの情けなさ、走っていていきなり はがれて飛んで行ったリトラクタブルライトのカバー、 雪道の恐怖 (最初の年の冬の雪道で直進してただけ なのにいきなり一回転スピンで目の前が田んぼとかり 等々トラブルもいい思い出です。 最近は流石に色々な 所がへたってきておりエンジンやサスペンションまで オーバーホールするか乗り換えるか悩む日々です。気 になっている車がいくつかあるんですが、メンテナン スをしてくれる店がなかなかなさそうなのと、今の車 に愛着もあってなかなか踏ん切りがつきません。

最後に、昨年娘が生まれました。病院にいる時と娘が眠った後(最近睡眠時間が安定してくれてほっとしています)以外は殆ど娘の相手をして過ごしています。この原稿を書いている時点で1歳になったところですが、日に日に行動力が増して、色々しゃべろうと頑張っているのがとても可愛いです。親馬鹿トークになるときりがなさそうなのでこの辺にしておきます。



| 七尾市医師会広報誌 | | 07 |

介護医療院転換に当たり

医療法人財団愛生会 理事長 時國信弘



本題に入る前 に愛生会の歴史 を少し。浜野正

雄先生が浜野医院を創設したのは昭和21年。

浜野病院とした後、昭和45年(1970年)に現在の、 医療法人財団愛生会に至っております。

昭和60年に、正雄先生がお亡くなりになったのちは、3年ほど浜野家が継いだので、永守郁夫先生が4代目理事長、5代目が嶋崎鋼兵先生、そして6代目が私、時國ということになります。ご存じかもしれませんが私、輪島の下時國家に生まれ、現在も第24代当主を務めており、こういう星の下に生まれたのかもしれません。

愛生会では10年目に浜野西病院院長を拝命し、その10年後の平成28年に嶋崎鋼兵先生から、「あとはお前に任せる」と言われるまま、すべての責任を負う立場となりました。あれから3年が経ちましたが、この時代に120名余の職員を預かり、医療法人を運営してゆくのは並大抵のことではありませんが、今回もまた10年を一区切りとして少なくともあと7年は頑張ろうと決めています。

財団という性格上オーナーがいません。かといってだれかに雇われているわけではないという不思議な立場ですが、患者さんを困らせない。地域に迷惑をかけない。そして職員がそれほど不自由なく食べていける。そんな法人運営があってもよいかと、周囲に助けられながらも今日もまた、院長でありそして理事長を務めております。

そんな最中、平成30年の改定でついに介護療養 病床の廃止期限が決まりました。

この介護療養病床は、かつて蔓延した社会的入院 患者の受け入れ先として平成12年の介護保険法施行、 続く平成13年の医療法改正に伴い創設された病床群 の一つです。

当院の浜野病院もいわゆる老人であふれていましたから、先陣を切って浜野西病院を開設したのです。

開設後は、特養や自宅などでは到底無理な医療看護が常時必要な方を受け入れており、社会的意義を認められるものと思っておりましたが、平成18年に突如廃止が決定され、ここまで二度の延長を経たな



かでの廃止決定であり、もう後がありません。

当院は介護療養96床のほか医療療養48床、あわせて144床が法人運営の屋台骨、生命線ですから経営の一大局面です。もちろん、今いる患者様をはじめ、地域のことを考えるとうつかりしたことはできません。転換先は、当法人のポジショニングからすれば介護医療院です。アップコンバートは考えられません、大きなダウングレードも経営上は困難です。

幸いにも介護医療院の施設基準は介護療養病床とほぼ変わらなかったため、この西病院の大規模な建物改修は不要でした。人員配置基準も変わらず移行には大きな障害がありません。唯一異なるといえば住まいとしての機能(プライバシー確保のため家具などで仕切る等)を有していなくてはいけません。ここも幸いなことに多床室は初めから家具で仕切られていたため、二人部屋の改修だけで済みました。

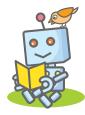
一方で、医療療養病床の転換には最後まで悩みました。最終的に医療療養病床を残さなかったのは今後の運営を総合的に鑑みての私の決断です。もちろん、入院患者様には迷惑をかけられませんから、家族の皆さんにお越しいただき、丁寧に制度変更にともなう病床転換を説明しました。医療保険で入院されていた方々に介護保険の認定をお願いするところから、費用が大きく変わる方への理解を得るための時間など、できるだけのことをしました。残念な事にお一人だけ介護認定が取れず転院となりましたが、北村先生が快く引き受けてくださいました。準備においては神野先生にもお願いし、恵寿鳩ケ丘様にアドバイスを頂戴するなど、いろんな方にお世話になり感謝いたしております。

病院の看板を下ろすことになりましたが、なんとかこの4月1日より浜野介護医療院として出航することができ、まずは安堵しております。

申し訳ないことに、昨年末より人員配置に不安が 生じ、新規の入院を止めている状態であり、各方面 にご迷惑をおかけしております。

加えて新型コロナウイルス禍もあり、ますます舵取りが難しい状況ですが、これからも職員他、皆様のご協力なくしてはこの任を果たせないと、新たな覚悟をもって新年度に際し心を新たにしている次第です。





公立能登総合病院 中泉治雄

昭和43年初めて七尾市に2ケ月間住んだ。当時の 公立能登総合病院の院長は奥田幸造先生で、大き なお腹を揺らしながら"能登島に船で渡り、一泊二 日の診療に出かけて"と勧められた。七尾市府中町 の桟橋(現食祭市場)から能登島佐波にわたり、鰀目 診療所、野崎診療所、中央診療所(現;能登島診療所) をめぐる診療旅で、金沢大学病院第一外科入局1年 目の私には、血圧を測定し、お薬を渡し世間話を聴 く程度であった。当時の能登島は松茸狩りが有名で あった。それから20年後、福井県立病院から、昭 和63年10月に再び七尾市に着任すると、能登島に は立派なコンクリート橋が架かっていた。(日本で初 めてのPC製コンクリート橋 "長生橋"((今は運動公 園湿性植物園に移設されている))が御祓川に架かっ ており、この工場が七尾市にあった) 島民以外は 1500円の料金を徴取され、ゴルフ場からの帰りに は半額に割り引かれた。

着任2ヶ月後には宮永院長が事故死された。年明けには昭和天皇が崩御され、平成となり、翌年には七尾市医師会理事に選任していただいた。恵寿総合病院院長先生と協力し、平成5年10月七尾消化器カンファランスを開催できた(平成28年3月まで161回)。

平成12年2月公立能登総合病院を新築移転した。 新築にあたり、病院案内標記に英語名を付け、各室 にシャワートイレを付けた。さらに、患者ベットを丸 ごとガス消毒する部室を設置した。当時感染管理医 師 (ICD) 制度が発足したばかりであり、エチレン オキサイドガスでベッドを丸ごと消毒するものであっ たが、ガス抜きに時間がかかりすぎる事、エチレン オキサイドガス利用が止まる事態となり、数回で使 用できなくなった。

また、始めは気楽な気持ちで受けた第三次救急 指定病院を維持するために、金沢大学、消防、救 急へりの運用に今も努力が続いている。

第62回日本消化器内視鏡学会北陸地方会を七尾市で開催し、当時発展中の腹腔鏡補助手術のシン

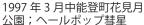
ポジウムを行った (平成5年)。さらに、第23回日本 消化器病学会市民公開講座"なかなか聞きにくいお 尻の話"を鹿島町で開催した (平成14年)。

多くの先生方や皆様にご協力頂きましたことを感 謝申し上げます。

(七尾市で全国学会開催は昭和47年10月奥田幸造会長の農村医学会)

4月からは七尾を辞し、金沢市の石川県成人病予防センターで検診業務に協力する予定です。







2011年4月カナダ・イエローナイフオーロラ観察



■ 2012 年 北海道屈斜路湖に 集合した大白鳥合 唱団



七尾港まつり総踊り



2016 年 7 月抱っこしたコアラ 今も無事祈る



| 七尾市医師会広報誌 | | 09 |

特定行為認定看護師 ①

恵寿総合病院 船山真理子

皆様、こんにちは。いつも大変お世話になっております。私は恵寿総合病院に勤務させて頂いている慢性呼吸器疾患看護認定看護師の船山真理子と申します。看護師特定行為についてのお話をということで書かせていただきます。看護師特定行為研修制度は、2025年に向け、さらなる在宅医療の推進を図るために創設された制度となります。医師の判断を待たずして、手順書により特定行為研修修了看護師が一定の診療の補助を行います。

下記の図は厚労省ホームページ(https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000128788.pdf)からの「特定行為の実施の流れ」となります。医師は診察後に手順書により脱水があれば点滴を実施するよう看護師に指示をしておきます。特定行為研修修了看護師が、観察等を行い、病状の範囲であることを確認し、点滴を実施することができます。

特定行為の実施の流れ ◆研修を受けるとこのようにかわります (脱水を繰り返すAさんの例) 医師 看護師 医師 看護師 看護師 点滴を実施 医師から看 Aさんを観察し、脱水 研修 の可能性を 疑う 「るよう看護師 医師 看護師 手順書に 示された ② ② Aさんを診り ACAVを砂奈 後、手順書により脱水症状があれば点滴を実 点滴を 施するよう看護師に指示 症状の範囲外 医師に報告

当院では2016年に厚生労働省が指定する研修機関に指定されました。現在7区分12行為の特定行為研修を受けることができます。OSCEの時には中村耕一郎先生にご指導を頂いております。研修生は院内の看護師だけでなく、他の病院や訪問看護ステーションの看護師さんもいます。

当院では、現在15名の特定行為研修修了看護師が勤務しています。表は、特定行為研修修了延べ人数と、2017年10月~2020年2月までの特定行為実施件数です。定期的に気管カニューレの交換があり、特定行為の中でも一番多い行為です。

実際にどのように活動をしているか少し、紹介させて頂きます。

医師より「看護師特定行為実施」の指示がでると、当日勤務している特定行為研修修了看護師(以下特定看護師と記す)に連絡が入ります。特定看護師は手順書を確認し、特定行為を実施していきます。特定行為研修で学んだフィジカルアセスメントや推論を駆使して、「患者の病状の範囲」を確認し、特

(特定行為研修修了延べ人数と、2017年10月~2020年2月までの特定行為実施件数)

特定行為	研修修了 延べ人数	特定行為 実施件数
呼吸器 (気道確保に係るもの) 関連	7人	5件
呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連	11人	71件
呼吸器 (長期呼吸療法に係るもの) 関連(気管カニューレの交換)	7人	90件
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	9人	2件
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	3人	4件
動脈血液ガス分析関連	5人	45件
創傷管理関連	2人	0件

定行為を行っていきます。例えば、人工呼吸器装着 中の患者さんに対しては、経口挿管チューブが抜け 気味であると判断した場合は、「経口用気管チュー ブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整」の特定 行為を行い、医師に報告します。患者さんの呼吸状 態に合わせて、人工呼吸器の「侵襲的陽圧換気の 設定の変更」を行い、自発呼吸を活かせるように RASS(Richmond Agitation-Sedation Scale) を用いて鎮静状況を確認し、「人工呼吸管理がなさ れている者に対する鎮静薬の投与量の調整」を行 い、SAT(Spontaneous awakening trial)を 行 います。そして、「人工呼吸器からの離脱」として SBT(Spontaneous breathing trial)を行い、そ の評価として「動脈血液ガス分析関連」を行ってい ます。人工呼吸器の設定変更から、動脈血液ガス 分析までの一連の行為を行うことができます。

現在は、院内で行うことがほとんどの特定行為です。しかし、先日「創傷管理関連」については、恵寿訪問看護ステーションから相談があり、訪問診療医の先生と連携し関わらせて頂きました。気管カニューレの交換や、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の特定行為なども地域の先生方のお力を頂き、在宅で関わらせて頂けたらと考えています。そのために、地域の先生方と顔の見える関係を築き、信頼して特定行為を任せて頂けるよう、特定看護師15名頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



特定行為認定看護師 ②

公立能登総合病院においては、平成29年より特 定行為研修実習機関となりました。

平成29年度は、「創傷管理関連」区分4名、平成30年度は、2名が修了しました。今年度(令和元年)は、「創傷管理関連」にプラスして、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」区分が新しく開設され、令和2年3月に5名が修了しました。当院のみならず、近隣病院の看護師も仲間に入り、共に学び、共に刺激合いながら、活動を行っています。

具体的に、当院の「創傷管理関連」4名の特定行 為看護師の活動をご紹介いたします。

活動の場

形成外科・皮膚科外来

特定行為看護師が外来で、創部の観察や医師の診療の介助、特定行為範囲の処置、創部の管理に関する指導を行っています。

病棟褥瘡回診

褥瘡対策委員会と連携し、褥瘡回診に参加 し、チームの一員として情報交換を行います。 また、創部の観察と処置を行っています。

訪問看護ステーション

創傷管理が必要ですが、通院が困難な方や 特別な処置が必要な方々に在宅で処置を行い ます。

在宅での環境調整、日常生活観察、スキンケア指導を行っています。

病院内では、褥瘡や創部のサポートチームの一員 として活動し、傷が早く治るように、医師・看護師・ 栄養士・薬剤師・リハビリ療法士と連携を図ってい ます。また、在宅では、患者様がたとえ病院に通院 できなくても、適切な治療とケアが受けられるよう に支援しています。

公立能登総合病院では、特定行為看護師と医師 との絆が強く、相談・報告・連絡がスムーズで、タ イムリーに対応することができます。手順書に従い、

公立能登総合病院 木下真由美

ステーションのスタッフが デザインを考案



公立能登総合病院で特定行為研修を修了した看護師の胸にキラリと輝く自慢のバッチ

決して無理せず、患者さんの、安心・安全・安楽を 第一優先に、関わることに努めています。実際、侵 襲の高い処置や、褥瘡の判断評価は、緊張の連続 です。その中で、少しでも患者様のお役に立てた時 は感動でした。まだまだ未熟ですが、是非私達に お任せください。

「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」は、これからが活動のスタートです。研修で学んだアセスメント力を活かして、「身近に特定行為看護師がいて良かった」と言ってもらえるように、アピールと共に実践を確立していきたいと思います。

今後も、特定行為看護師の素晴らしさを伝えさせ ていただきますのでよろしくお願いいたします。



| 七尾市医師会広報誌 | | 11 |

<u>これだ</u>けは言わせて! — ⑩

七尾市医師会副会長 佐原博之

地域医療構想の現状

-新型コロナウイルス感染症終息後の社会と、社会的共通資本-

2019年12月中国武漢市で流行が始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、瞬く間に全世界に拡大しました。スペイン風邪の世界的な流行から100年、医学は目覚ましい発展を遂げましたが、未知のウイルスに対しては、やはり人類は無力であることを痛感させられました。都市化とグローバル化が進んだ現代社会は、100年前よりもむしろパンデミックが起こりやすい環境になってしまったとも言えます。

アメリカやイタリアなど多くの先進国が中国よりも 多くの感染者と死亡者を出すことになってしまいまし た。日本でも多くの感染者が出ましたが、それらの 国々と比較すれば、死亡者が少なかったことが評価 されています。多くの要因があり、今後も分析が進 んでいくと思いますが、一つの要因として医療への アクセスがあげられています。イタリアは、医療費の 削減のために大幅な病床削減を推し進めていたとの ことです。アメリカはもとより民間医療保険が中心で、 保険に加入をしていても高額な医療費がかかるとい うことで問題になっていました。平時の際には社会 的コストと考えられてしまいがちな医療は、効率化と 経費削減を求められ、日本でも地域医療構想が進 められてきました。病床削減、病院の統廃合が日本 中で叫ばれ、その極みが 2019 年 9月 26 日の厚生 労働省の発表でした。翌日の9月27日の新聞の一 面に、全国 424 の公立病院が再編統合の必要があ ると大きく報道されたのは記憶に新しいかと思います。 県内でも7医療機関が実名で報道されました。現在、 地域医療構想の議論は、県全体で行う全体会議と医 療圏別に行われる調整会議が開催されます。令和元 年度の大きなテーマとして、県内の7病院の改善計 画を議論することでした。各医療圏別の調整会議で これらの7病院の現状と対策について報告されまし たが、これらの病院はすでに数年前からダウンサイ ジングや機能変更に着手しており、改めて新しい対 策は必要ないという結論になりました。医療の効率 化や社会保障費の増大を抑える取り組みが必要なこ とは理解できますが、過度な対応は平時の地域医療

の維持に支障が出ることはも ちろん、COVID-19 感染拡 大のような有事の際には簡単



に医療崩壊をしてしまいかねないということです。医療崩壊が起こると、COVID-19 だけではなく、救えるはずの多くの人命を失ってしまいます。このやりどころのない悲しさは、ご家族はもちろんですが、現場の医療者としても大変つらいものです。

世界的な経済学者であった宇沢弘文先生(元東京 大学名誉教授)は、「社会的共通資本」という考え 方を訴えていらっしゃいました。その定義は、「一つ の国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆた かな経済生活を営み、優れた文化を展開し、人間的 に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを 可能にするような社会的装置」というものです。社 会的共通資本は、大気、森林、河川、水、土壌な どの「自然環境」、道路、交通機関、上下水道、電力、 ガスなどの「社会的インフラストラクチャー」、そして 教育、医療、司法、金融制度などの「制度資本」の 三つが重要な構成要素とされています。特に、医療は、 代表的な社会的共通資本であるとされています。「社 会的共通資本は、たとえ私有が認められるものであ っても、社会全体にとっての共通の財産として社会的 な基準に従って管理、運営すべきである。利潤を目 的とした市場原理の対象とせず市場原理から切り離 して管理すべきであり、また、国家の統治機構の一 部として官僚的に管理されてはならない。職業的専 門家集団によって、専門的知見に基づき、職業的規 律に従って管理・維持されなければならない。ただし、 その前提として専門家集団には高い学問的知見と倫 理性が求められる。」と述べています。

COVID-19 は、まだ完全には終息していませんが、この経験から人類は多くのことを学びました。新型コロナウイルス感染症終息後の社会を再構築する際に、社会的共通資本としての医療という考え方は非常に重要なことだと思います。そういう視点で、地域医療構想を考え直していかなくてはならないと強く感じています。

第3回 ローカル路線・ 2019

七尾市医師会 事務長 神前昭太郎



「今日、能登地方は昼前から雨となる見込み」という天気予報にもかかわらず、傘を持たずに七尾駅へ。参加者の多くも傘を持ってきておらず、一抹の不安を抱えながらのと鉄道の観光列車「のと里山里海号」は8時58分、日本海ブルーの車体を輝かせて発車した。和倉温泉駅ではJR勤務のご近所さんを見つけ窓越しに手を振り合う。

電化区間を過ぎたところで辻口博啓氏のロールケーキとマカロンとコーヒーが配られる。ディーゼル車特有の振動もあり、カップソーサーがカタカタ鳴るのはご愛敬。コーヒーはやや濃いめながら、ケーキとの相性も良く、景色を楽しみつつゆったりとした時間を過ごす。初回(2017年)の旅では「信寿し」の寿司弁当を頂くも、持ち込みのお酒やソフトドリンクの準備や片付けで車窓を楽しむどころではなかったことを思い出す。



しばらくすると能登中島駅に到着。10分程度の停車時間を利用して、「オユ10」という形式では全国に2両という貴重な車両を見学。昔は郵便物の多くが鉄道で運ばれており、ホームでの荷下ろし作業は



当たり前の光景だった。

列車は9時33分に発車、峠を越え深浦地区の港が見える位置で停車。ガイドさんが「鉄道でしか望めない絶景」とアナウンス。桜で有名な能登鹿島駅を過ぎ、ボラ待ちやぐら付近にも停車。ここでは観光列車に合わせて近所のおばあちゃんが来るとのことで、皆で手を振ったり撮影したりで忙しい。のと鉄道社員手作りのイルミネーションのトンネルを抜けると9時58分、終点の穴水駅に到着。



駅ターミナルから能登島交通の観光バスに乗車。 隣の観光バスに誤乗する人はいなかったが、何度も (ここに限らず) 参加人数を確認する。幹事は色々 大変なのだ(と言いたい!)。この時点で雨が降って



| 七尾市医師会広報誌 | | 13 |













きており、一抹の不安が(こういう言葉はないが) 十抹の不安くらいになったのだった。

中島と穴水からの参加者も加わり全員が揃ったところで奥村義治七尾市医師会長が挨拶。バスは卵で有名なイセ食品を右折し、数分後、最初の目的地「能登ワイン」に到着。何と雨が上がっており、聞けば「ついさっきまで降っていたのに急に晴れた」とのことだった。

能登ワインでは製造工程の見学と各種ワインの 試飲があり、今年の生産分は出来が良いとの説明 を受けた。ワインに使用するブドウは食用ブドウよ り糖度が高く、紹介していた品種は糖度22度とのこ と。試飲では皆口々に「うまいねー」を連発。その 後、次の目的地の「日本海倶楽部」に向け出発。国 道249号線は七見あたりから海岸線沿いを走行、矢 波では廃線跡や駅ホームを確認できた。

日本海倶楽部はレストランだけでなく、ワイナリーとしてビールを4種類、隣接施設で食用ブドウを生産しており直売も行っているが、今年は生育遅れのためもう少し先になるそうだ。

さて、メニューは写真をご覧頂くこととして、食事が始まって程なくして大雨となった。食事が終盤に差し掛かっても止む気配がなく、百抹の不安というか諦めに近い状況に。デザートとコーヒーが各席に

配られたところで「大雨のため出発時間を15分遅らせます」と皆に告げる。内心、1時間以上は覚悟していたのに15分後、何と雨が止んだのだ。まさかの展開で我ながら驚いた。

バスが発車し、最後の目的地である「マルガージェラート」に到着する頃には青空が広がっていた。その後、能登島に架かる2つの橋を経由して七尾に帰着。結局、誰も濡れることもなく、まさに「神がかり」としか言いようがない旅だったと思う。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって旅行計画は白紙となっているが、パンデミックが 一日も早く終息することを願う。



紫蘭の会活動報告



「ななお紫蘭の会」令和元年度の活動について

平成23年3月より七尾市の在宅医療・介護を推進するため、多職種連携組織として「ななお紫蘭の会」が立ち上げられました。

「ななお紫蘭の会」は七尾市の委託を受け、2014年(平成26年)から、年5~6回開催していた役員会のうち3回を市の連携推進協議会と合同開催しています(MSN第77号にその詳細を掲載してあります)。

今回、令和元年度「ななお紫蘭の会」(市の連携推進協議会と合同開催)の主要な活動を報告致します。

日時 内容 人数 備考 他

5月

「よくわかる在宅医療のしおり」配布179か所 5月14日

在宅医療推進事業打ち合わせ会(県医師会) 5月31日

第1回ななお紫蘭の会運営委員会

(第1回在宅医療·介護連携推進協議会) 報告事項

- ①認知症初期集中支援推進事業について
- ②田鶴浜高校「看取りの授業」について議件
 - ①昨年度の事業報告及び決算
 - ②今年度の事業計画及び予算
 - ③ほっとけんステーションの取り組みについて

6月20日

第1回在宅医療·介護連携推進担当者研修 8月21日

第2回ななお紫蘭の会運営委員会

- ①ほっとけんステーション
- ②課題整理シート
- ③居宅介護支援事業所概要一覧シート

9月19日

第2回在宅医療:介護連携推進担当者研修

9月25日

「ななお認知症ほっとけんステーション」 設置にかかる講座

- ①認知症の疾患、診断、治療等について 講師:さはらファミリークリニック院長(認知症サポート医)佐原博之先生
- ②認知症高齢者の理解と対応について 講師: 能登認知症疾患医療センター精神保健福

祉士 田辺めぐみ氏

- ③認知症ほっとけんステーションの役割について
- ④市の認知症施策等について

講座を受講した職員が所属する事業所を「認知症はっとけんステーション」(薬局31、歯科医院1、合計32事業所)として登録

10月9日

第1回かかりつけ医等認知症対応力向上研修(ななお 紫蘭の会・あじさい会合同勉強会) 40名

多職種によるグループワーク形式での事例検討会 講師:公立能登総合病院精神センター長 平松茂先生 10月18日

第3回ななお紫蘭の会運営委員会 (第2回在宅医療・介護連携推進協議会)

①認知症ほっとけんステーションのちらし

ななお紫蘭の会会長 円山病院院長 円山寛人

- ②在宅連携課題整理シート
- ③在宅医療・介護連携ルール ~急変時の対応~

12月1日

認知症講演会「認知症の人の希望 を実現させよう」 82名

- ①なないろカフェの活動紹介
- ②講演会「認知症とともに笑顔で生きる」 講師:若年性認知症当事者 丹野智文氏
- ③グループワーク

12月6日

七尾鹿島消防本部にて各機関の状況報告と在宅者急変 時ルールについての意見交換(中能登町と合同) 20名 七尾市社協地域福祉課に「緊急ファイル」の活用を依 頻

令和2年1月

「介護・医療連携用紙」の活用状況の把握 (アンケート実施) 93か所

1月23日

第2回かかりつけ医等認知症対応力向上研修(ななお 紫蘭の会・あじさい会合同勉強会)

多職種によるグループワーク形式での検討会 42名 講師:(医法)社団恵仁会恵仁クリニック院長村井裕先生

1月31日

第4回ななお紫蘭の会運営委員会 21名

- ①ななお認知症ほっとけんステーションの活動
 - ・医療機関への受診勧奨 13件
 - ・地域包括支援センターを紹介 6件
 - ・地域包括支援センターへ連絡 3件
 - その他 2件
 - ・パンフレット配布枚数 109枚
- ②「介護・医療連携用紙」アンケート実施状況
- ③認知症講演会
- ④1月29日田鶴浜高校専攻科「看取りについての授業」80名
- ⑤在宅者急変時ルールの確認
- ⑤七尾市内有床医療機関 相談窓ロ一覧表の確認
- ■2月9日(日)

県民公開講座

(七尾市・中能登・羽咋市・能登北部) 共催

於 千寿苑 「交流ホール」 参加者:約100名

・基調講演「ひとりぼっちつくらない~ひとり暮らしや 認知症の方を支える~」

講師:大阪府豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長 勝部 麗子先生

・パネルディスカッション

『ひとりぼっちを、この地域で支える』 パネリスト

勝部麗子先生(大阪府豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長) 林 繁寿先生(徳田地区社会福祉協議会 会長)

高津 貴子先生(なかのと若年性認知症家族の会「青空」代表) 座長:佐原博之先生(県医師会理事・さはらファミリークリニック院長)

その後の年度末の予定は新型コロナウイルス感染拡大 により、中止となりました。

これが発刊される頃にはCOVID-19感染症が収束し、 皆様に笑顔と元気が戻っていますように。



| 七尾市医師会広報誌 | | 15 |

あじさい会

(中能登町在宅医療介護連携を考える会)



「在宅の課題を、みんなが仕事で生かせるような研修会にしましょう。」

今年度のあじさい会は、この一言から始まりました。 時が経つのは早いもので、あじさい会は19年目に入 りました。今年も「年をとっても、病気になっても、介 護が必要になっても、ひとりになっても、中能登町に おりたいわいね~」の思いを支える会を目指して、在 宅療養に関わるいろいろな職種が一緒に勉強会をし ています。

私たちが仕事をしている中能登町でも、少子高齢、一人暮らし、空き家の増加、引きこもり等、地域の課題はたくさんあります。日々の仕事の中でモヤモヤすることもあります。そのモヤモヤを、日々多職種との相談や研修会というあじさい会のつながりを通して、少しでも地域の方にいい形で提供できるよう努めてきました。

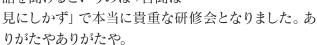
平成26年10月に「中能登町がこんな町になったら素敵!~ずっと住み続けられるために、こんなのあったらいいなぁ~」ということで、ワールドカフェ方式を使った研修会をしました。当日は総勢41名のあじさい会メンバーが和気あいあいと語り合い、模造紙や付箋に書いてあるだけでも300を超える意見が出ました。おそらく、当日のテーブルではその何十倍もの話が出たと思います。でも、私たちはそのすべてに取り組めるわけではありません。自分たちが「中能登町在宅医療介護連携を考える会」として特に取り組んでいかなければいけないものは何だろう。そこをもう一度みんなで話し合いました。

そして出てきたテーマが①認知症②看取り③普及 啓発④地域を考えるの4つです。この4つのテーマに ついて必要な課題を抽出し、研修会に盛り込むという 方法で、年間を通じて研修会をしています。

今年度は、現時点(令和2年2月1日)で8回の研修会を行っています。特養での看取りの事例検討や様々な課題を抱える8050家族の事例検討、HMD (ヘッドマウントディスプレイ)を使用して認知症の方の世界を体験する研修会などを実施しました。6月は、「在宅で呼吸器を使用しながらの生活を学ぶ」というテーマで、呼吸器を触れたり、実際にご自宅で呼吸器を使用して生活しておいでる方に研修会場へ来ていただき、本人の思い、介護しているご家族の思いを生の声として聴かせていただきました。10月には、県社協との共同企画で、引きこもりの当事者・ご家族・支援者の方から、それぞれの思いと専門職に期待

あじさい会代表 中能登町安田医院長 安田紀久雄

することを教えていただきました。 やはり、多職種が同じ会場で、当 事者の方々やご家族から直接お 話を聞けるというのは「百聞は一



あじさい会では、平成28年度から「住民とともに」 というテーマも掲げています。決して専門職だけが知 っていれば、専門職だけがつながっていれば、安心で きる療養生活を支えられるというわけではありませ ん。あじさい会が、住民の方々と一緒に学べる会にな ることで、本当に安心できる町になっていくのではな いか!との意見が出て、「一般公開講座」という形で 住民の方々と一緒に学ぶ場を開催しています。今年度 は、8月に町社協の地域づくりフォーラムで、あじさ い会活動発表&「ぼけますから、よろしくお願いしま す」映画上映会を行いました。「ぼけたくない」という 気持ちも分かるけど「ぼけても大丈夫だよ」という町 になると、生活しやすいよね、愛でいっぱいだね、と いうわけです。あじさい会が、住民の生活・療養を一 緒に考え、支える存在であり続けられるよう、みんな でしっかり前進してまいります。



令和元年5月「施設での看とりの実際を学ぼう」





令和元年8月 地域づくりフォーラムにて あじさい会活動発表&映画上映会 「ぼけますので、よろしくお願いします」

16 |第78号| 令和2年7月1日 |

七尾看護専門学校から



令和2年度 入学式

新入生、気持ち新たに

令和2年4月9日 入学式が行われました。志高く、 意欲溢れる32名の新入生が看護師への第一歩を踏 み出しました。これから共に助け合い励まし合いな がら、学校生活を送ります。





入学牛代表宣誓

日々学び、経験を積 み重ね努力していく ことをここに誓いま す。



歓迎の挨拶

これから一緒に学び、 一緒に思い出を沢山 作りましょう。

授業の様子



遠隔授業開始

休校に伴い、オンラ イン上での遠隔授業 を始めました。

作成した資料を教員と 学生が共有しながら、 授業を進めています。



令和元年度 戴帽式



11月22日

2年生38名が病院実習を 前に決意を新たにしました。







令和元年度 卒業生へお祝いの言葉

卒業おめでとう!

本校開校以来の珍事とも言える、

まさかの卒業式中止となってしまいましたが

あなたには、七尾看護専門学校の

卒業生である矜持を胸に

自分自身で選んだ世界で修練し、

幸せになってください。

また、どこかで会いましょう!!

学校長 中村 耕一郎

*国からの「休校要請」を受け、新型コロナウイルス感染 拡大リスク防止のため、卒業式は中止、入学式は縮小開 催となりました。

令和3年度

学校見学会



高校1・2・3年生 社会人の方

8/1 (±) • 9/5(±)



本校公式

SNS 更新中



☆校内見学・個別相談

※今年度の学校見学会は、新型コロ ナウイルス感染拡大リスク防止の ため、縮小開催といたします。

FAX: 0767-53-6548

七尾看護専門学校 お問合せ先

TEL: 0767-52-9988

Instagram twitter



facebook



| 七尾市医師会広報誌 | | 17 |

医師会の窓

〔行事〕	令和元年 5 月~令和 2 年 4 月
MSN合唱	令和元年5月14日·28日、6月11日·25日、7月9日·23日、8月27日、9月10日·24日、10月8
練習	日、11月12日・26日、12月10日・24日、令和2年1月14日・28日、2月25日、3月10日・24日
総務会	令和元年5月7日、6月10日、7月22日、9月9日、10月15日、11月11日、12月9日、令和2年1月8
がいカカム	日、2月10日·25日、3月10日、4月13日
役員会	令和元年5月13日·27日、6月17日、7月29日、9月17日、10月21日、11月18日、12月16日、
	令和2年1月20日、2月17日、3月16日·23日、4月20日
令和元年	
5月20日	社内監査
27 日	第7回定時総会
6月3日	MSN編集担当者会議
9日	三師会ゴルフコンペ (優勝:室木俊美/室木歯科口腔外科医院)
26 日	令和元年度第 1 回能登中部小児休日診療協議会
7月10日	令和元年度第 1 回 MSN 編集会議
8月25日	第3回ローカル路線・夏の旅
9月5日	救急医療講習会
29 日	MSNゴルフコンペ(優勝:辻口大/辻口医院)
10月8日	石川県医師会との懇談会
25 日	第9回JOY会
11月14日	中能登地域産業保健センター運営協議会
22 日	七尾看護専門学校戴帽式
12月5日	MSN忘年会
12 日	令和元年度第2回能登中部小児休日診療協議会
令和2年	
1月14日	令和元年度第 1 回M S N編集会議
28 日	七尾看護専門学校運営会議
2月5日	地域連携の集い -病院と開業医をつなぐ会-
23 日	三師会麻雀大会(優勝:高田宗明/円山病院、準優勝:甲春夫/かぶと歯科医院)
3月6日	七尾看護専門学校卒業式(中止)
23 日	令和元年度臨時総会
4月9日	七尾看護専門学校入学式

[医師の異動] 平成31年4月~令和2年3月(順不同、敬称略) 山崎成敏 (やまざきクリニック)、木南佳樹 (七尾松原病院)、渡邉博之 (介護老人保健施設和光苑)、 向井清孝・矢部友久・山村健太・鎧高健志・豊田洋平・中井亮太郎・寺田和始・下川寛右・東恭子・ 入会: 池野観寿・坂田祐一・林雅人・大田垣昂・板谷芳輝・上田菜保子・加藤大翔・長岡理紗・酒井順・山 根希望・宮竹敦彦・岩井俊・望月一太朗・岩淵佑・大島俊哉(以上、恵寿総合病院)、湊梨穂・辻本有 瑳・中社泰雅・喜多大輔・佐藤勝明 (以上、公立能登総合病院) 山本修三(ご逝去、元山本内科医院)、飯田桂一(ご逝去、元飯田医院、元七尾市医師会長)、鍜治武文(ご 逝去、かじ内科クリニック)、白藤正則 (ご逝去、元 白藤医院/金沢市医師会)、山崎省行・山崎成敏 (3/31 やまざきクリニック閉院)、中川東夫 (七尾松原病院)、藤村政樹・堂下隆 (国立病院機構七尾 病院)、平井洋(介護老人保健施設和光苑)、宮森弘年・渕崎宇一郎・小濱隆文・山﨑恵大・赤崎恭太・ 退会: 林雅人・岩井俊・池野観寿・矢部友久・鎧高健志・下川寛右・望月一太朗・加瀬一政・西谷雅樹・河 野達彦・山本大樹・板谷芳輝・安本真衣・豊岡達志・中島啓貴・高橋健・安田康平・江村純正・上田 菜保子(以上、恵寿総合病院)、中泉治雄・藤岡正彦・中社泰雅・竹内良太朗・北村浩司(以上、公立 能登総合病院)

高沢至(3/31 高沢内科医院閉院→自宅会員)

異動:

七尾市医師会副会長 上木 修



会にも何度か参加してきましたが、勤務医における医師会の意義がなかなか見えてきませんでした。また、ずっと勤務医として働いてきた現在、勤務医として医師会の中でどうあるべきかについても、なかなかスッキリした答えが得られていませんでした。しかし最近、医師会の、および医師会における勤務医の役割は、病診連携、病病連携を通じて地域医療への貢献を目指すことではないかと思い至っております。地域での顔の見える関係の構

築において、医師会の役割は大きいと感じてお ります。そんな矢先、今回のコロナ騒ぎが起こり、 外出規制、面会制限など、顔の見える関係構築が 困難な状況が発生してしまいました。今年の初 めにはこの様な状勢を誰が予測していたでしょう か。しかしそのような状況の中、テレワークの推 進、遠隔診療の許容などが進められ、オンライン 会議やオンライン面会、さらにはオンライン飲み 会まで始まりました。七尾市医師会でも、総務会 はオンラインで執り行い、特に支障はありません。 やってみると案外やれそうです。学会はなくとも、 Webセミナーなどにて新しい知見を得ることは可 能で、ZOOM面会でもある程度の情報が得られ ます。人と人とのつながりが希薄になるのではと 危惧していましたが、人と人のつながりがかえっ て深くなる可能性もあるかもしれません。今まさ に「新しい生活様式」を探る模索の始まりを感じ ております。

《《《《《《 短 信 》》》》》》

◆令和元年度石川県医師会医療功労者表彰

上木 修 (公立能登総合病院) 佐伯智幸 (公立能登総合病院)

- ◆令和元年度石川県知事表彰(母子保健事業) 池﨑綾子(さはらファミリークリニック)
- ◆令和元年度石川県知事表彰(健康増進事業) 藤田晋宏(藤田医院) 鍜治武和(かじ内科クリニック)
- ◆令和元年度七尾市・中能登町在宅当番医制 事業報告

○休日当番医実施日数:76日

○来院患者数

七尾市·中能登町(一般):1,171人 七尾市·中能登町(広域小児):1,618人

◆本誌に永年ご貢献いただいたエッセイスト・ 小林良子さんが 第38回北國風雪賞を受賞され ました。

七尾市医師会会員一同よりお慶び申し上げます。

編集後記

本号の第1回編集会議が行なわれた1月中旬には予想もしなかった新型コロナウイルスの影響もあり、長期の外出規制などの窮屈な生活が強いられてしまいました。そんな中、3密を防ぐ取り組みとして、会議もオンラインで行なわれることが増えました。6月の2回目の編集会議はZOOMで行なわれましたが、特に支障はありませんでした。コロナウイルスによる怪我の功名といった感じでしょうか。

昨今、フェイクニュースが巷にあふれております。七尾市内でもコロナ患者が立ち寄ったなどという噂で医療機関や食料品店などが被害にあったことも記憶に新しいところであり、真実を見極める目を持つことが重要であると実感しました。なお、本号にフェイクニュースは掲載されておりませんので安心してお読みください。

(恵寿総合病院 木元一仁)

(発行責任者) 奥村義治

メディカルサロンななお編集部

(編集委員) 五十音順

上木 修・円山 寛人・鍜治 武和・北村 勝 木元 一仁・佐原 博之・高澤 雅至・田中 文夫 中尾 義広・中村耕一郎・藤田 晋宏・安田紀久雄 山本ひろみ・神前昭太郎

発行 七尾市医師会

〒926-0854 七尾市なぎの浦156 TEL (0767) 52-2297 FAX (0767) 53-6548

【会員訃報】

元 山本内科医院/山本修三先生(七尾市郡町)が 令和元年10月18日にご逝去されました。

元 飯田医院/飯田桂一先生(七尾市本府中町)が 令和元年11月3日にご逝去されました。

かじ内科クリニック/鍜治武文先生(鹿島郡中能登町)が令和2年1月11日にご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。